

# 俳句詠み動けぬ日々を観察し

芸能人の才能のアルナシを判定するバラエティー番組「アプレトII」(毎日放送制作)でおなじみの俳人、夏井いつきさん(63)が、「家から一歩も出なくても俳句は作れます」という活動をしている。コロナの時代。なぜ、おウチで俳句なのか。普段着の夏井さんを直撃した。



## 辛口でも

先日は、「第2回おウチde俳句大賞」の贈呈式に伺い、驚きました。「アプレトII」では梅沢富美男さんとの毒舌バトルが面白いので、どんな辛口が飛び出すのかと思ったら、作品のよい部分を見つけ、とって

## もおやそこー

夏井 そのからくりは簡単で、授賞式は良い句しか出ないので、怒る必要は微塵もないという(笑)。「笑」。それとテレビは、ダウンタウンの浜田(雅功)さんらの絶妙な語り口のおかげで面白いと感じていたたけるわけです。そもそも懸命に作った句を

## 先頭出演の林修さんが詠んだ八月煙々美朝のやぐらをぐらし〜という破調の句への添削にもなりました。「美朝のやぐらをぐらし月煌々」と語順を入れ替えただけで印象ががらりと変わりました。

夏井 へをぐらし〜とまず詠んで、対比的に季語の月を



## 季語の価値

「俳句の価値」という高難関な印象もある俳句で、なぜ、面白さを強調するのですか。夏井 中学校の国語の先生をしてた時から、「面白いと思わせたら、こっちの勝ち」って思っているからです。そ



## 才能アリ?

「とはいうものの、俳句には才能が必要なのでは?」夏井 私は「自分の脳みそから出てきたものは自分以下でしかない」と思っているんです。だったら外の世界にアンテナを張り、観察すればいい。そうすれば自分以上のものが転がり込んできます。芝不器男の八白藤の揺りやみしかばつすみぢり〜という句を見てみましょう。ここに

## 病床六尺

先見の明ですね。夏井 とんでもない〜ス



## おウチde俳句



「おウチde俳句」の元祖は、同じ愛媛出身の正岡子規です。子規は病気で動けなくなっても、「病床六尺」などであれだけの作品を作った。子規が私に乗り移って、生まれた発想だと思っています。

力が湧いてきました。ありがとうございます。

## × おウチでも 面白い種探す人生の方が楽しいよ

1957年生まれ。松山市在住。俳句集団「いつき組」組長。俳句甲子園の創設に携わる。句集に『夏井いつきのやさしい俳句の授業』と多数。夏井 今、あなたがたにくらでもつゆやきがあるじゃないですか。「秋の暮日那は飯つてうるさい」といって言えば、もう俳句への第一歩。それを繰り返せば俳句の筋肉はついていきます。だいたい、普通に暮らしていて人から褒められることってあんまりないでしょう。はあ……。



「誰かの力を借りない」と外に出ることができない私には、俳句をする資格がないのですか?」と言つた人の声が、この年齢になつて胸に響いてきたからで

「誰かの力を借りない」と外に出ることができない私には、俳句をする資格がないのですか?」と言つた人の声が、この年齢になつて胸に響いてきたからで

「誰かの力を借りない」と外に出ることができない私には、俳句をする資格がないのですか?」と言つた人の声が、この年齢になつて胸に響いてきたからで

「誰かの力を借りない」と外に出ることができない私には、俳句をする資格がないのですか?」と言つた人の声が、この年齢になつて胸に響いてきたからで

「誰かの力を借りない」と外に出ることができない私には、俳句をする資格がないのですか?」と言つた人の声が、この年齢になつて胸に響いてきたからで

力が湧いてきました。ありがとうございます。